

エクランEX

施工要領書

お願い! 施工について

寒くなったら (5℃以下) ご注意ください!

エクランEXは**水系の舗装材**です。
 (水分の蒸発とともに乾燥・硬化します)
 だから…「**寒さは苦手**」です。

施工後のトラブルを避けるために…

- ①施工後・乾燥・硬化まで、気温5℃以下になる場合の施工は避けてください。→地面はもっと低温になっています。
- ②塗り厚は1mmです。厚塗りすると割れや硬化不良を起こします。
- ③10℃以下では乾燥硬化までに2~3日かかります。
- ④トップコートは完全乾燥後に塗布してください。
- ⑤乾燥硬化するまでは、絶対に水に濡らさないでください。(必ず雨養生してください)
- ⑥冬期において車を乗り入れる場合は、3日以上養生してください。

セット内容

包装形態		屋内用	屋外用
上塗材		4,800g	4,800g
樹脂セット	プライマー	400g(水系)	500g(溶剤系)
	上塗材用ボンド	2,000g	2,000g
	上塗材用接着強化剤	42g	42g
	トップコート	300g	300g
施工要領書		1部	1部

注)目地有り仕上げの場合は、着色下地材
 [(グレー・ライトグレー) 400g/3㎡・ポリ缶]を
 別途購入してください。

適応下地

■**セメントモルタル(金鍍仕上げ)** ※木鍍仕上げなど下地が粗い場合は施工できません。

施工方法

準備する物



プライマー用

(屋外用:溶剤系、屋内用:水系)

- ウールローラー
- ローラーバット

上塗材用

- 鍍 (0.3mm厚以下の鍍)
- 上塗材混練り用容器 (マープル仕上げの場合は2つ)
- リシンマゼール
- 表面の平らなスポンジ (スポンジ仕上げの場合)
- 霧吹き (平滑仕上げの場合)

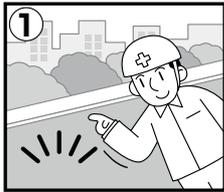
着色下地材用

- ウールローラー
- ローラーバット

トップコート用

- ウールローラー
 - ローラーバット
- 養生テープ、カットマスカー、
 その他左官工具一式
 ※溶剤系と水系用の器具は分けて
 使用してください。

■セメントモルタル(金鍍仕上げ)



- 2%程度の排水勾配を設け、雨水の排水設計に留意してください。
- 下地はセメントモルタルとし、金鍍で平らに仕上げたものとします。
- 下地は完全に乾燥させてください。湿っていると塗材のハガレ・フクレの原因となります。



- 下地表面のホコリ、ゴミ、土、レイトンス、油分、コケ、カビなどは完全に除去してください。
- セメントの白華及び汚れは、前日にデッキブラシ、ワイヤーブラシなどを用いて水洗いするか、ポリッシャー(床洗浄・研磨機)で研磨清掃して完全に除去してください。

※清掃が不十分な場合は、ハガレを生じることがあります。



- 下地の不陸(凹凸)、欠損部の不良下地は、あらかじめセメントモルタルなどで平滑に補修してください。
- 1mm未満のヘアクラックの場合は「SKカチオンクリート」(別売)で全面補修してください。
- 1mm以上のクラックはエポキシ樹脂を注入してから、「SKカチオンクリート」(別売)で全面補修してください。

施工手順

施工後気温5℃以下になる場合と夏期炎天下での施工は避けてください。気温の高低または、直射日光の影響、風の強弱により乾燥時間が大きく変わりますので注意してください。

1 プライマーの塗布(乾燥時間:夏期1時間以上、冬期2時間以上)



プライマー原液をローラー、または刷毛を用いて、セメントモルタル下地にしみ込むように規定量を塗布します。

※塗布量は、屋外用約150g/㎡、屋内用約120g/㎡を目安として3㎡に塗り広げます。

※屋外用プライマーは溶剤系のため、溶剤特有の臭いがします。

目地有り仕上げの場合は②へ

目地無し仕上げの場合は④へ

2 着色下地材の塗布(乾燥時間:夏期1時間以上、冬期4時間以上)



着色下地材



着色下地材原液をウールローラー、または刷毛を用いて、約120g/㎡を目安として塗り広げます。

3 目地材を貼る 着色下地材が乾燥後に行ってください。

【SK抜き目地 舗装用08タイプの場合】



【墨出し】
着色下地材の乾燥後に墨出しを行います。曲線の場合は鉛筆などでデザインの下書きを引きます。



【SK抜き目地の貼り付け】

墨出し、下書きしたラインの横に目地材を貼り付けます。その後、鏝などで十分に圧着し、下地からはがれないようにしてください。

※目地材が交差したところは、重なった部分を切除してください。

【パターン目地の場合】



【墨出し】
「パターン目地」を正確に貼るために、墨出しを行います。墨出しは、基準線を出し、場合によっては補助線も入れてください。



【パターン目地の貼り付け】

歪みが生じないように、基準線及び補助線に沿って丁寧に貼り付けます。貼り付け後は、へら、鏝、ゴムローラーなどで圧着します。突合せ部で隙間を生じた場合は、紙テープなどを貼り付け、隙間に上塗材が流れ込まないようにしてください。フクレが生じている箇所はその部分をカッターで切り、フクレをなくしてください。

4 上塗材の塗布(塗り厚1mm) (乾燥時間:夏期24時間以上、冬期48時間以上)

塗り方には3種類の方法があります。

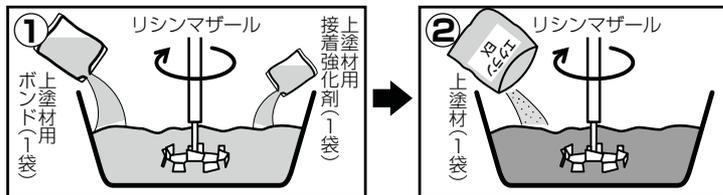
単色仕上げ …1色を使用して塗布します。

混色仕上げ …2色(A色、B色)を使用し、同じ容器で2色を混合して混練りしてから塗布します。

マーブル仕上げ …2色(A色、B色)を使用し、別の容器でそれぞれ混練りし、塗布する際に2色を鏝で混色します。

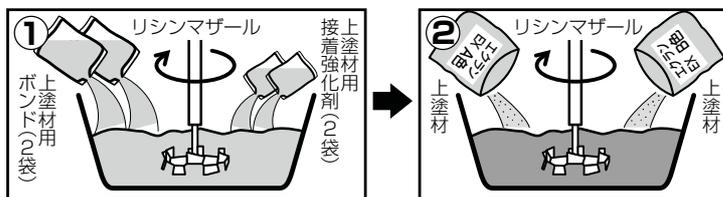
〈練り方〉

単色仕上げ の場合



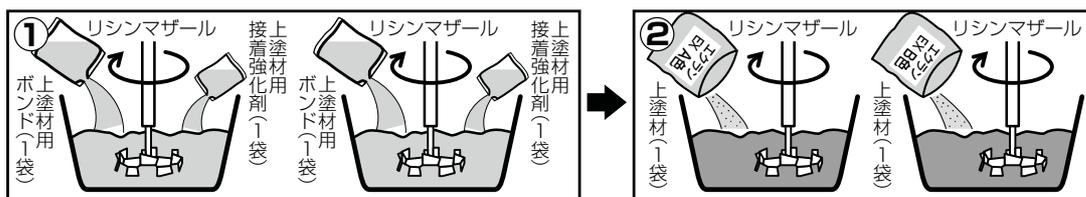
容器に「上塗材用ボンド」(1袋)、「上塗材用接着強化剤」(1袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。次に「上塗材」(1袋)を入れ、リシンマザールでよく練ります。

混色仕上げ の場合 (1つの容器で)



1つの容器に「上塗材用ボンド」(2袋)、「上塗材用接着強化剤」(2袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。次に「上塗材A色」「上塗材B色」を入れ、リシンマザールでよくかき混ぜます。

マーブル仕上げ の場合 (2つの容器で)



容器に「上塗材用ボンド」(1袋)、「上塗材用接着強化剤」(1袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。次に「上塗材」(1袋)を入れ、リシンマザールでよく練ります。2つの容器に分けて、A色とB色を練ります。

〈塗り方〉

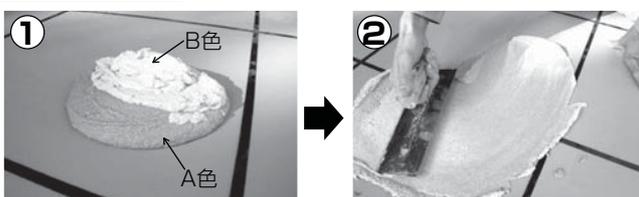
- 塗り厚は1mmとします。
- 抜き目地、パターン目地を使用する場合は、塗布した際に目地が見える程度が標準塗り厚です。
- 塗材で目地が被ると厚く塗り過ぎです。厚塗りは冬期の硬化不良や、割れの原因となりますので避けてください。
- 夏期などの炎天下では塗面が急激に乾燥します。目地枠単位で仕上げるなど、塗り継ぎがでないようにしてください。
- 施工前に試し塗りを行い、仕上がりの確認を行ってください。
- 立ち上がり面にも施工可能です。しかし、1度に厚塗りすると塗面がダレることがあるため、薄塗りによる2回塗りをお勧めします。先ず1回目はシゴキ塗りお行い、乾燥を見計らって(塗面の動きがなくなってから)、2回目も薄く塗付けて仕上げてください。

単色仕上げ 混色仕上げ の場合



鏝で薄く塗りつけます。

マーブル仕上げ の方法



- ① A色を盛り付けた後、A色の上にB色を同量盛り付けます。
- ② 盛り付けた塗材を、鏝で上から押し伸ばして塗布していきます。伸ばす際、鏝でならし過ぎると混ざりすぎてマーブルの風合いを損ないます。

〈表面の仕上げ方〉

塗り付けた後、すぐに表面を仕上げます。夏期などの炎天下では塗面が急激に乾燥します。「塗布 → 表面仕上げ」は連続作業で行ってください。

① スポンジ仕上げ



ある程度平滑に塗りつけた後、表面の平らなスポンジで塗面を数回叩いて仕上げます。洗車用などの大きめのスポンジを使用すると作業がはかどります。

※スポンジは水に浸した後、よく水を切ったものを使用します。作業中にスポンジに塗材が付着した場合、水で塗材を洗い流し、よく水を切ってから作業を続けてください。

※塗面に対して斜め方向に叩くとスポンジのエッジ跡が付きますので、真上から叩くようにしてください。

※一定方向に進まず、ランダムに叩いて仕上げてください。

② 平滑仕上げ

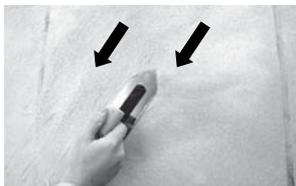


塗り付けた後、塗面に少量の霧吹きをして仕上げ鏝で平滑に仕上げます。

※霧吹きを多量に行くと、色ムラ、塗膜強度の低下、乾燥が遅れるなどの恐れがありますので、少量厳守してください。

※多少の鏝後は残ります。

③ ラフ仕上げ



塗り付けた後、鏝のエッジ部分を浮かし、先端部分の面を塗面に付け、手前方向に鏝を滑らせるようにしてラフ模様を付けます。ラフ模様を付けた後、前記のスポンジ仕上げを行うとマイルドなラフ仕上げとなります。

※下地が透けないように注意してください。

※厚塗りにならないように注意してください。

〈吹付け施工について〉

●リシガン・自在タイプ(口径3~4mmを推奨)を使用します。形状によっては製品が出ない恐れがありますのでご注意ください。(図参照)

●標準施工面積は2㎡/セットです。

●練り方は鏝塗りと同じです。水は添加しません。

●マーブル仕上げはできません。「パターン目地」は使用できません。

●吹付け圧は5~6kgf/cm²に設定してください。

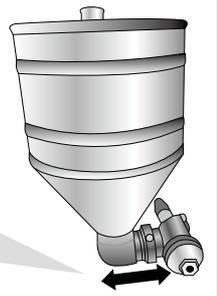
●2度吹きを標準とします。まず荒吹きを行い、乾燥を見計らって(塗り面の動きがなくなってから)2回目を吹き付けて仕上げてください。

●施工厚は1.2mmを目安に、透けないように吹付けてください。施工厚が厚すぎる場合は、目地材の除去が困難になる恐れがあるのでご注意ください。

●材料を長時間ガンの中で貯めると、表面から材料が乾燥して固まります。夏期は特にご注意ください。

【図】リシガンの例

この部分が長い(または構造的に流れにくい)リシガンがありその場合は材料が吹付け口まで流れず、吹付けできません。

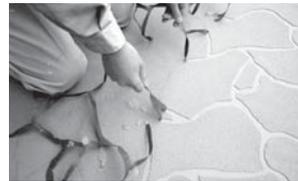


5 目地材の除去 (上塗材乾燥後)

●抜き目地の場合



●パターン目地の場合



上塗材を塗付し、夏期3時間、冬期24時間以上乾燥させた後に、目地材を除去します。バリが出た場合はカッターなどを使用して除去してください。除去後はほうきやブロワなどで清掃してください。

※目地材の除去にはラジオペンチを用いると作業し易くなります。

6 目地部の補修



●上塗材が入り込んだ箇所や下書きが残った場合は着色下地材で補修します。



着色下地材

7 トップコートの塗布 (乾燥時間: 夏期2時間以上、冬期12時間以上)



●上塗材乾燥後、または目地材除去後(目地補修した場合は、補修箇所が乾燥後)、「トップコート」をウールローラーや刷毛を用いて塗り広げます。約90g/㎡を目安として塗布します。

●作業はできるだけ短時間で行い、生乾き塗膜をこすらないでください。

※車の乗り入れには、一昼夜以上の養生を必要とします。

エクランEX施工ポイント

■適応下地：セメントモルタル 金縷仕上げ

1 表面の汚れや粉分を除去

- 👉 接着不良を防ぎます。
ほうきやワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで下地表面を掃除します。
※清掃が不十分な場合はハガレを生じることがあります。

2 プライマーは丁寧に規定量を塗布

- 👉 セメントモルタル下地にしみ込むように規定量を塗布します。

3 目地材は着色下地材が完全乾燥してから貼る

- 👉 乾燥が十分でないと接着不良になったり、目地材を剥がすときに、着色下地材と一緒に剥がれることもあります。

4 目地材は下地にしっかり圧着

- 👉 上塗りのときに目地材が剥がれたり、目地材の下に上塗材が入り込み目地が潰れます。目地が潰れたときは、着色下地材で補修してください。

5 目地材の交差部の重ね貼りは厳禁

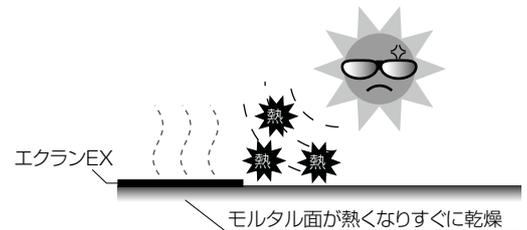
- 👉 上塗りのときに目地材が剥がれたり、目地材の下に上塗材が入り込み目地が潰れます。



6 炎天下での施工は避ける

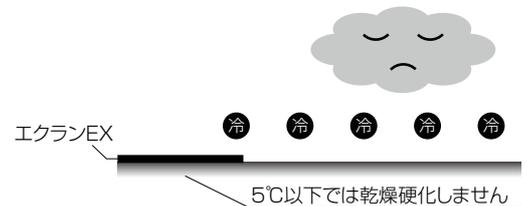
(夏期は日陰養生をするか、気温の低い朝夕に施工を!)

- 👉 炎天下では、表面乾燥が早くなります。
- 👉 急激な乾燥は仕上がり不良の原因になります。



7 施工後、乾燥まで気温が5℃以下になる場合の施工は避けます。

- 👉 地面はもっと低温になっており、乾燥硬化しません。
- 👉 気温5℃～10℃で、乾燥硬化に2～3日かかります。



8 薄い縷で、薄塗り仕上げ(1mm)

- 👉 縷は0.3mm厚以下の柔らかいものを使用してください。
- 👉 厚塗りは冬期の硬化不良や割れの原因となります。

9 すばやく仕上げる

- 👉 夏期炎天下は乾燥が早くなるので、上塗りは約0.5㎡を2分以内で素早く仕上げてください。

10 上塗りが完全乾燥後トップコートを塗布

- 👉 作業はできるだけ短時間で行い、生乾きの塗膜をこすらないでください。

施工手順

●下地の確認、清掃

●プライマー塗布

●乾 燥

●着色下地材の塗布

●乾 燥

●目地材を貼る

●上塗材の塗布

●乾 燥

●目地材を剥がす

●トップコートの塗布

●完 成

目地有りの場合

施工上の注意

- 屋外施工では天候に十分注意し、降雨、強風時の施工は避けてください。
- 気温10℃以上での施工を標準とします。
- 施工後、乾燥までに、気温5℃以下になる場合の施工は避けてください。
- 冬期、床面温度は、気温よりもかなり低くなります。気温5℃以下の乾燥では舗装材としての十分な強度が得られないことがあります。凍結した場合には、剥離の恐れがあります。
- 夏期炎天下での施工は、表面乾燥が促進されるため、日陰養生するか、気温の低い日陰からか、早朝、夕方などに施工してください。夏期の床面温度は50℃以上になり、乾燥が早く作業に支障がでます。
- 樹脂が乾燥するまでは臭気が出ます。室内での施工の場合は、特に換気に注意してください。
- 乾燥するまでは、絶対に水に濡らさないでください。
(必要に応じ、シートなどで雨養生してください。)
- 材料は直射日光、雨水のあたらない一定の場所を定めて保管してください。
- 骨材は天然素材のため、ロットにより多少色調の異なる場合があります。
- 塗り継ぎは塗り付けた塗材が乾燥しないうちに行ってください。連続作業ができない場合は、あらかじめ目地を入れておいてください。

取扱上の注意



安全に関するご注意

製品の特性を十分にご理解いただき、正しくかつ安全にご使用いただくために、次の事項につきまして、ご注意願います。

1. 作業中は目、皮膚への接触を防止するため、状況に応じて保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を着用してください。
2. 目に入った場合には、多量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
3. 皮膚に付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは、外観に変化がある時は、医師の診断を受けてください。
4. 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
5. 子供の手の届かないところに保管してください。
6. 施工時には換気を行ってください。
7. 作業後は手を洗い、うがいをしてください。汚れた作業服は洗濯してください。
8. 容器は密封し、直射日光を避け、換気のよい冷暗所に保管してください。また、冬期には凍結しないように注意してください。
9. 空容器の処理は、可燃物・不燃物に仕分けして産業廃棄物業者に依頼してください。残さ・残液(ボンドなど)は下水・河川・池・井戸・地下水などを汚染する恐れがある場所には廃棄しないでください。
10. 指定された以外の材料と混合しないでください。
11. より詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

〈おことわり〉

1. 舗装面に強く触れると肌を傷つけることがありますので、注意してください。
2. 天然の土、砂を使用していますので、ロットにより多少の色違いを生じることがあります。
3. 天然の色土や顔料を使用していますので、わずかに退色することがあります。
4. 長期的には光沢がなくなります。
5. 塗装の裏側より水が浸透し、凍結を繰り返した場合、変色や剥離を起こすことがあります。

ご不明な点がありましたら、詳細は包材の裏面に記載してありますので、ご覧ください。